

活動スローガン

「宮木公民館活動」を、
“みんなで 明るく、楽しく、元気よく”

館 報

みやき

発行 宮木公民館
編集 宮木公民館文化部
印刷 辰野プリント

御 柱 祭

令和4年4月23日～25日



第204回 宮木諏訪神社御柱祭

主事 武井 高 信

4月23日から25日にかけて第204回宮木諏訪神社御柱祭における山出し、里曳き、建御柱が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で人力での曳行は密になる恐れがある為、ホイールローダを使って御柱を曳く事となりました。それでも実行委員を先頭に区旗、町内旗を役員が掲げながら、てこ衆、木遣り、ラッパ隊がそれぞれ配置につき行進しました。

一の柱では、難所である小横川集落内及び国道153号線と下諏訪辰野線が交わる宮木の信号がある三叉路では、木遣りやラッパ隊の演奏で力を合わせ、てこ衆による華麗な誘導により無事乗り越え安置所まで曳行し、1日目をおえました。

2日目の里曳きでは、御柱を神社に迎え入れる、「迎接の儀」が古式ゆかしく厳かに行われました。行列の担当者はそれぞれ装束に身を包み、境内に並べられていた持ち物を手に、1日目と同様に神社近くまで曳行されていた4本の御柱を迎えに沿道清めの後に続きゆっくりと行進しました。柱祭渡御行列の後はそれぞれの御柱が境内に曳き込まれ、里曳きは終了しました。

3日目はいよいよ建御柱です。山を出て里を曳かれた御柱が神となる瞬間です。乗り手を乗せた御柱が氏子からの掛け声がかかる中ゆっくりと、ゆっくりと立ち上がっていきました。それぞれの社殿の4隅に御柱が建てられ、氏子の大きな拍手と歓声のなか終わりました。

続いて子ども達が主役である「子ども御柱」が5月5日に行われました。1の柱は北湯舟公民館前、2の柱は南湯舟上の浄水場付近、3の柱は双葉製作所上踏切付近、4の柱は富士塚集会所から、それぞれ宮木諏訪神社を目指し、区内の園児や小中学校の児童生徒、参加した子ども達のご家族の皆さんが力を合わせて曳行しました。本祭りと同じく新型コロナウイルス感染症対策を行い、安全対策の為に参加者も絞って行われました。途中木遣りやラッパ隊の演奏に鼓舞され、改めて気持ちを込めて力いっぱい境内に御柱を曳き入れたのちに建て御柱を行い終了しました。

今回の御柱は全ての行事で天気が良く事故もなく、すばらしい御柱祭でした。

ふるさと歴史探訪

7月10日(日)

宮木を流れるセギに沿って歩いてみた

文化部長 西 澤 真

ふるさと歴史探訪が7月10日(日)に行われました。去年、一昨年とコロナウイルス感染症拡大により、開催が中止となっていたので2年ぶりの開催となりました。

辰野町文化財保護審議会の三浦孝美さんを講師に迎え、宮木を流れるセギ(用水路)に沿って歩き、その歴史に触れました。

「そもそも、セギってなに?」と、日常ではあまり触れることも特に関心を持つこともない町の中を流れる用水路のイメージでした。

当日は新町セギ、宮木セギ、伝兵衛セギの順で小横川方面まで皆で歩き、それぞれについての解説をしていただきました。

その歴史は古く、江戸時代や幕末まで遡るそうです。昔は田んぼや生活用水の確保のためにセギを整備し、少しでも生活が豊かになるよう先人たちは苦労や工夫をかさねたようです。今現代までその場、その形で受け継がれていることになんとか胸が熱くなるような不思議な魅力を感じました。

この日は天気も良く、とても有意義な1日となりました。



宮木区ホームページ

<http://miyaki.sakura.ne.jp/>

区内の行事予定や公民館の行事、館報のバックナンバー等も掲載しています。
QRコードから是非!



編 集 後 記

今年度の公民館行事は新型コロナウイルス感染拡大につき、区民球技大会、ほたる祭り町民総踊り、ふるさと夏祭りが去年と同じく中止となりました。

なかなか収束の兆しが見えず、各行事の中止に役員としても残念に思います。

そんな中ではありますが、今年度は宮木諏訪神社御柱祭、ふるさと歴史探訪の二つが公民館行事として参加、開催することができました。

今後も感染状況を注視しつつ、少しずつでも区民の皆さまが交流できる行事が増えてゆけるよう役員一同努力してまいります。

宮木の人口

(令和4年9月1日現在)

人口 3,737人

男 1,805人

女 1,932人

世帯 1,513戸